

平成27年度 第3回「地方公共団体の危機管理に関する研究会」



「南海トラフ巨大地震に対する地域防災力育成の試み」

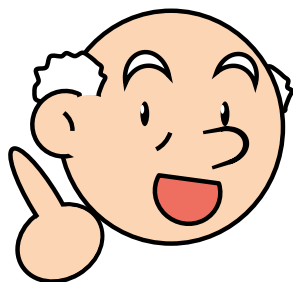


高知県四万十町 危機管理課 井上義之



「南海トラフ巨大地震に対する地域防災力育成の試み」

1. 四万十町の概要
2. 「地域防災」を進めていくキーワード
3. 「興津小学校地域ぐるみ」× 京都大学
4. 「丸山地区避難所運営マニュアル」× 高知大学
5. 四万十町の取組
6. まとめ



SHIMANTO TOWN
四万十町

1. 四万十町の概要

山・川・海 自然が 人が元気で



四万十町の概要

高知県四万十町

平成18年3月20日合併2町1村

人口: 18,212 人(8月末)

面積: 642.06m²

※淡路島: 592.19m²



- ①位置: 四万十川の中流域、東南部は土佐湾に面しています。
- ②特徴: 林野87.1%、田畑4.8% 大半が山に囲まれている状況。
- ③集落: ほとんどが四万十川とその支流の河川沿いや台地上にあり、一部は土佐湾に面する海岸部にあります。

高知市から南西に約60km

チャッチフレーズ／山・川・海 自然が 人が元気で 四万十町



自然豊かな四万十町 = 災害のリスクが高い四万十町

山 ⇒ 土砂災害

川 ⇒ 増水による浸水被害

海 ⇒ 津波



昔から“自然災害”
を経験してきた地区
ではあるが…。

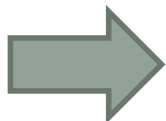
2. 「地域防災」を進めていくキーワード

山・川・海 自然が 人が元気で



「地域防災」を進めていくキーワード

- ①「普段からのお付き合い」 = 連携・安否確認
- ②「防災をイメージする」 = 訓練・マニュアル作成
- ③「“子ども”をまきこむ」 = 学校・PTA・3世代交流
- ④「町の方針」 = 町全体 & 職員全体で取り組む
- ⑤「防災を“暮らしの一部”にする」 = 教育・不安感



役場と地域をむすびつけるための“ジョイント”が必要！⇒ アドバイザー

四万十町を支援する4名のアドバイザー

京都大学

矢守克也教授

興津小学校を中心に興津地区の津波避難対策等を支援

- ・個別訓練タイムトライアル
- ・家具固定支援



高知大学

大槻知史准教授

丸山地区自主防災組織を中心に避難所運営マニュアル作成を支援

- ・マニュアル作成のコーディネート
- ・自助対策、避難対策のアドバイス



防災教育アドバイザー

松岡雅士元校長

町における小学校の防災教育の先駆者。県の土砂災害対策の支援も行っている。

- ・興津小学校防災教育
- ・十川小学校土砂災害プログラム



防災アドバイザー

山脇 登町嘱託職員

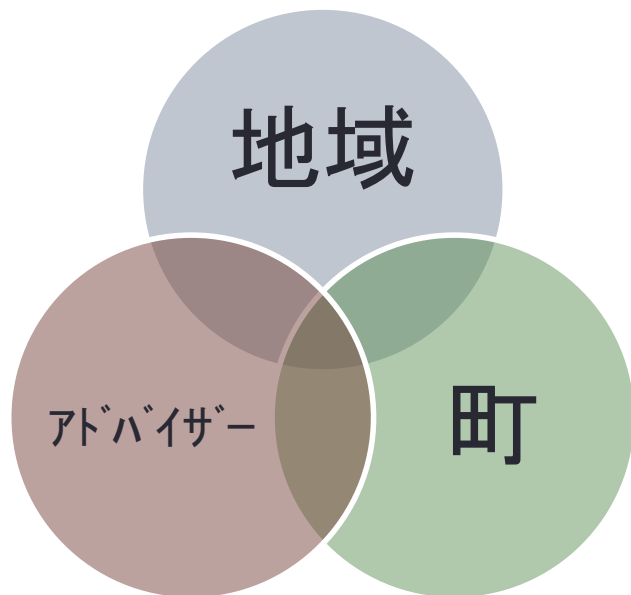
元消防署長 平成25年度より嘱託職員として町の自主防災組織育成の支援。

- ・各種訓練等での指導、防災啓発等
- ・その他各種防災におけるアドバイス等





アドバイザー導入の効果



- ①大学との連携
学生と地域とのつながりにより**地域が参加**！
- ②専門的なアドバイス
専門的アドバイスで意識・知識・技術力UP！
- ③注目度アップ
メディア等も注目！⇒**住民啓発**へつながる！
- ④町防災力の向上
地域の底上げが**町全体の底上げ**につながる！



アドバイザーが**地域と防災をむすびづけ**、四万十町の防災対策を「深める。広げる。」



具体的な取組事例へ...

- ①京都大学(興津地域ぐるみ)、②高知大学(丸山地区避難所運営マニュアル)

3. 「興津小学校地域ぐるみ」× 京都大学

山・川・海 自然が 人が元気で



「興津小学校地域ぐるみ防災活動」とは…

「孤立が予想される地域で、南海地震から身を守るため、地域と連携した防災教育の推進」



「興津地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会」設立

- ・平成17年度 文部科学省指定により本格的取組スタート
- ・平成18年度以降～ 町単独補助金(350,000円)を継続

【継続のポイント】

2名代表者制とする。「興津地区自主防災組織会長＋興津小学校校長」

「興津地域の防災教育の成功の第一の要因」…当初から学校と地域の代表者が、組織の責任者として車の両輪のように連携しながら取り組みできたこと。学校だけでは限界がある。

※設立時の松岡校長先生(現防災教育アドバイザー)のコメントより…。

四万十町

沿岸部地域：興津地区、志和地区



★四万十町興津地区 …沿岸部(農業、漁業を中心とした地区)

小室地区(漁港を中心とした地区)

郷分地区(興津地区の中心地区。保育所・小中学校等、農業が中心)

浦分地区(漁港を中心とした地区)

人口902人、世帯数518世帯(平成27年4月1日現在) 高齢化率52.3%

★新想定

最大震度:7

最大津波高:31メートル

(集落の大半が5~20メートルの浸水予測)



興津峠から見た興津



浦分

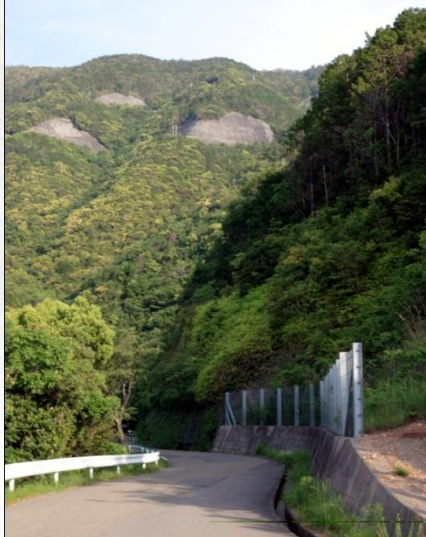
小室

郷分

興津中

興津小

峠の中腹からの眺め



大雨のたびに崩落



自然環境に恵まれた 興津地域の 人口 約900人

大小120のカーブが
続く全長7kmの
興津峠(台地部との
標高差約300m)

他地域との交通路が
県道52号
1本という全国でも
きわめてまれな
地理的状况にある

数年後 峠は
1. 5車線化される予定
しかし南海トラフ地震が
来れば確実に峠は...

興津小学校地域ぐるみ防災活動の中心人物

興津地区自主防災組織

船村 寛 会長



興津地区のリーダー。

県下でも早い段階で津波対策について
取り組んでくれたのはこの人のおかげ。
圧倒的なリーダーシップで地域をまとめる。

京都大学

矢守克也教授



興津小学校を中心に興津地区の津波避難
対策等を支援

- ・個別訓練タイムトライアル
- ・家具固定支援

興津小学校

の先生 & 子供達



平成17年より「興津小学校地域ぐるみ」の
取組として活動。将来の地域のリーダーと
しての期待も個人的にはしています。

京都大学
防災研究所



興津地区を中心に、津波避難 & 家具固
定の取組を支援。地域の人にも愛されて
います。今年度はスマホアプリを使った訓
練と家具固定を重点に活動。

「興津小学校地域ぐるみ防災活動」の取組

【主な取組】

★地域住民と連携しながら1年間を通じた活動を行っている。

平成17年度以降～「過去の主な活動内容」

- ①防災マップづくり(防災マップコンクール)
- ②海拔シール
- ③災害体験談
- ④防災サバイバルキャンプ等。
- ⑤運動会で担架を取り入れた競技。
- ⑥京都大学防災研究所との取組
- ⑦防災講演会での事例発表等
- ⑧各種避難訓練
- ⑨緊急避難所巡り遠足
- ⑩夜間防災マップ&家具固定の啓発活動等(平成27年度)

①防災マップづくり(マップコンクール)



防災担当大臣賞受賞
(平成20年)

興津保育園 デイサービス 小袖岩橋



興津保育園やさくら貝は、海拔3mくらいなので、津波の時は、確実につかるといいます。また、避難するのには小さい子供がいるので、時間がかかります。それに、近くの橋は地震のときには、崩れるとわれています。

② 海拔シール



興津小学校5・6年生が委員さん・建設会社・四国電力の協力で
地域の120本の電柱に海拔高度シールの貼付け
地域の大半が津波の被害を受けることを実感

③災害体験談

【昭和南海大地震】

地震の揺れの様子、津波による大きな被害波が遠浅の小室の浜の沖まで引き、その後再び津波が来たこと大きな被害を受けた地域でみんなが助け合い災害からの復旧を果たした講話。各地域の方にも…。



津波が来た時足がぬれて冷たかった

津波は、約四回来て、高さは2・5mから4mあった。

道に、亀裂が入るほど地震がすごかった。

津波が来た後、海を見に行くと、水がなかった。



【阪神・淡路大震災】

地震の様子や被害状況等の説明

④防災サバイバルキャンプ



⑤運動会で担架を取り入れた競技



9月30日の大運動会で、昨年習った担架を作り、下級生を担架の上に乗せ運びました。担架作りを毎年していたら、地震の時にもしケガをした人を運ぶのに、役に立つと思います。

< 児童の感想より >



⑥京都大学防災研究所との連携

津波から命を守るには ～最新のシミュレーション結果の紹介～

主催：ぐるみの会・四万十町役場・京都大学防災研究所減災社会プロジェクト

南海トラフ地震の津波想定によると、興津では集落の中心部でも、最悪の場合、10メートル以上浸水と言われています。

しかし、最新のコンピュータ・シミュレーションによれば、ひとりひとりが対策をすれば、被害を格段に減らせることが分かってきました。その「ツボ」はどこにあるのでしょうか。この機会に一緒にかんがえてみましょう。

日時：2014年8月30日（土）10：00から
（興津地区津波訓練の終了後すぐ開始）

場所：興津小学校 体育館

「想定を受け止め方 被害は減らせる！」
京都大学防災研究所 矢守克也教授

「興津地区・住民アンケートの結果から」
京都大学防災研究所 孫英英さん
京都大学防災研究所 野嶋太加志さん

「最新のシミュレーションをふまえた提言」
京都大学防災研究所 畑山満則准教授
京都大学防災研究所 杉山高志さん



【問合せ先】

危機管理課 味元伸二郎、井上義之
22-3280



個別訓練タイムトライアル
動画カルテ



個別訓練タイムトライアル

個別訓練タイムトライアル

京都大学防災研究所
矢守研究室
興津地域ぐるみの会

個別避難訓練とは？

みなさまが「主役」になって、一人一人個別に行う津波避難訓練です。ふだん生活されている場所からご自身で決めた避難場所まで避難していただきます。その間、私たちが避難の様子をビデオカメラで撮影します。「坂道が大変だ」「家具固定しておかないとすぐ逃げ出せないかも」「タワーと高台とどちらがいいのか？」など、避難に関する問題をみなさまとともに具体的に考えていきます。

写真はすべて、昨年、興津小の子どもたちと一緒にしたときのもの。今回は、より気軽に参加いただけるよう工夫しました。



いつやるの？
ご相談に応じます。

お金はかかるの？
無料です。



時間はどれくらい？
30分ほどです。事前の確認作業、訓練、事後のインタビューなどを含みます。



これまでの参加者
郷分、浦分、小室、すべての地区から18名の方が参加されました。

参加された方には「避難カルテ」を！

「避難カルテ」をさしあげます。避難場所や経路は適切だったか。避難に何分くらいかかったのか、避難場所に到着したときに津波はどこまで来ているのか、また、何分避難が遅れると津波に追いつかれる危険があるのかなどについてわかります。



私たちが伺います！
孫(左) & 谷澤(右)



24m 15s

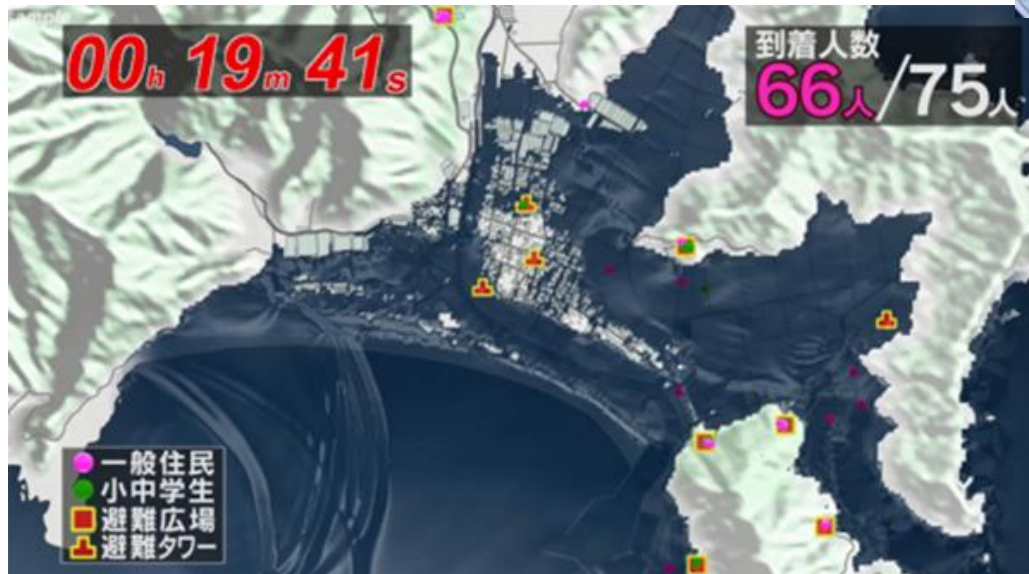
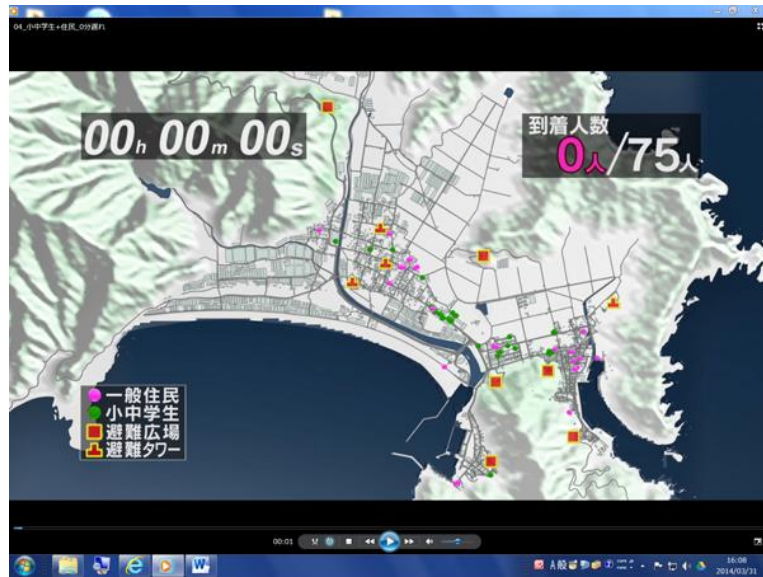
避難開始が
16分遅れた場合



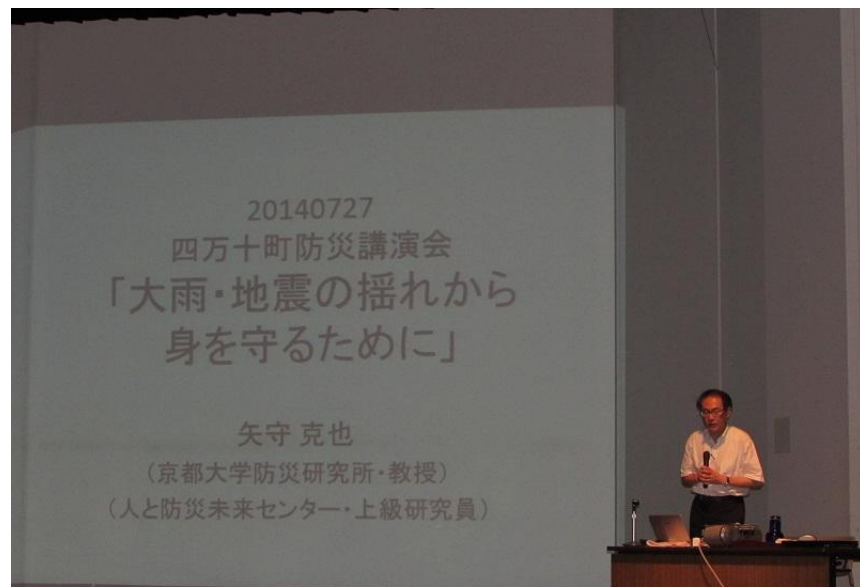
津波避難がご心配の方 ぜひ参加してみてください。
お申込・お問合せ TEL080-2875-2618(谷澤)
もしくはTEL0880-25-0021(興津小学校)まで



防災学習会（津波避難シュミレーション）

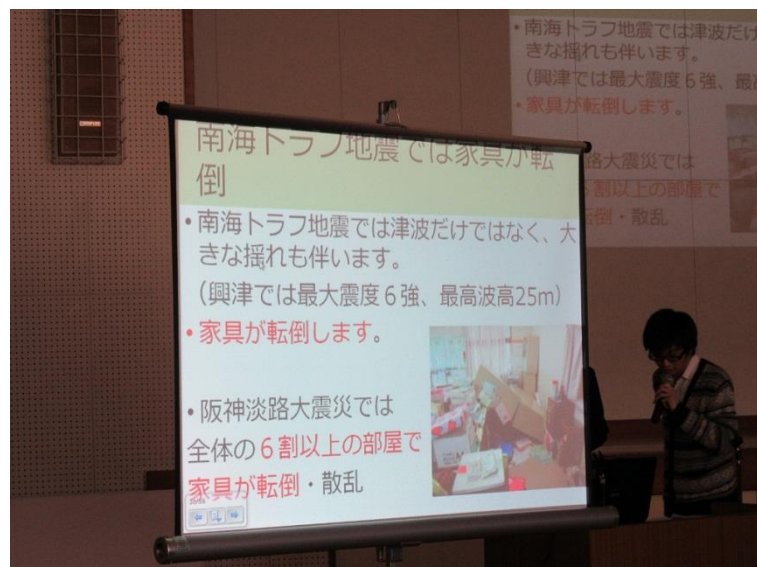
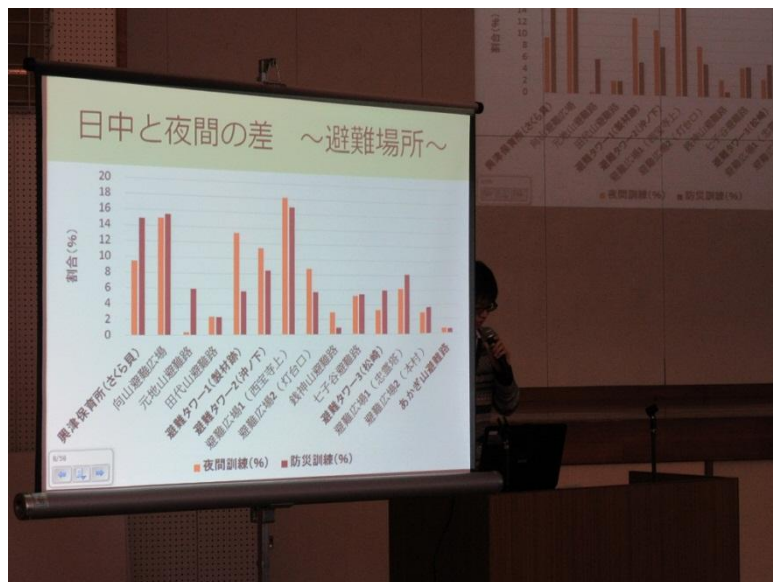


防災講演会【講演・地震体験】(8月30日)



地震ザブトン体験
クロスロード
揺れ対策等講演

防災学習会での講演(2月14日)



★夜間避難訓練タイムトライアルの分析

★家具転倒防止対策の重要性

中学校校内＋地域の家具固定の取組

中学校



地域



家具転倒防止取付金具講習会への協力



アンケートのとりまとめ
講習会への提言等

27年度 防災授業(5月18日)



【学校と京都大学との連携】

- ・7月11日(土)防災学習会
- ・2月13日(土)防災学習会



昼間と夜間の避難訓練の比較

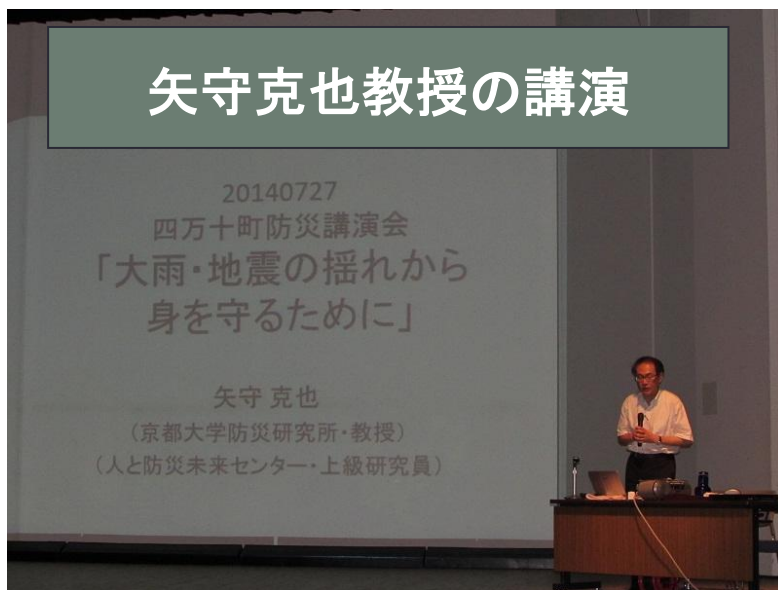
⑦防災講演会での事例発表等



地震ザブトンによる体験



家具固定の劇



矢守克也教授の講演

20140727
四万十町防災講演会
「大雨・地震の揺れから
身を守るために」

矢守 克也
(京都大学防災研究所・教授)
(人と防災未来センター・上級研究員)



事例発表

⑧各種避難訓練



地域の避難訓練



下校時 避難訓練



登校時 避難訓練



休み時間 避難訓練

⑨緊急避難所巡り遠足



興津地区 津波ハザードマップ

ゆれたら

とにかく

いそいで

津波警報等が
解除されるまで

長い揺れや強い揺れの後は必ず津波が来ると
思ってください。

津波警報や津波注意報の発表を待たず、身一つで。
(メガネ、薬、携帯電話など避難するのに必要な
ものは、手頃な容器に入れて持ち出せるようにしておきましょう。)

近くの高いところへ早く逃げましょう。

高台がない場合は、鉄筋コンクリートの建物なら3階以上の
高さに上がります。状況によってはさらに高いところ
に避難しましょう。

原則、車を使わず歩いて逃げてください。(津波に巻き込ま
れたり、車の壁を押しつぶされて逃げ遅れる可能性があります。)

津波は繰り返し襲ってきます。安全なところに避難したら、
津波警報などが解除されるのをラジオなどで確認してくださ
い。警報等が解除されるまで絶対に戻らないでください。



① 興津地区防災拠点施設

田代山避難路

元地山避難路

① 避難タワー①
(製材跡)

④ 多目的集会所付近【整備予定】

② 避難タワー②
(沖ノ下)

② 向山避難広場

③ 避難タワー③(松崎)

⑤ 浦分地区避難広場①
(西宝寺)

⑥ 小室地区避難広場①
(忠霊塔)

凡 例

避難場所

避難エリア

主な避難路

最大浸水深(m)

20.0 -
15.0 - 20.0
10.0 - 15.0
5.0 - 10.0
3.0 - 5.0
2.0 - 3.0
1.0 - 2.0
0.3 - 1.0
0.0 - 0.3

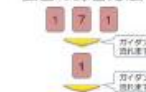
※図中の時間は高知県公表
津波到達時間(30cm)

避難場所	収容人員 (人)	備考
① 興津地区防災拠点施設	700	
② 向山避難広場	282	
③ 浦分地区避難広場①(西宝寺)	264	
④ 浦分地区避難広場②(灯台口)	120	
⑤ 小室地区避難広場①(忠霊塔)	242	
⑥ 小室地区避難広場②(小室本村)	200	
⑦ 避難タワー①(製材跡)	115	
⑧ 避難タワー②(沖ノ下)	123	
⑨ 避難タワー③(松崎)	39	
⑩ 避難タワー④(多目的集会所付近)【整備予定】	121	

※整備予定のため、当該避難エリアについては
適宜近隣の避難場所へ避難すること

災害用伝言ダイヤル「171」のかけ方 「いない?」と覚えましょう!

伝言の録音方法



被災地の場合は、白色の電話番号
被災地以外の場合は、被災地の電話番号
(090) 0000-0000
待機画面を入力
でと入力

録音完了 (30秒)

伝言の再生方法



被災地の場合は、白色の電話番号
被災地以外の場合は、被災地の電話番号
(090) 0000-0000
待機画面を入力
でと入力

再生開始

災害発生時(震度6 超以上の地震など)には、NTTの災害用伝言ダイヤルサービスが確
保されます。事前の契約などは一切必要ありません。家族や友人などが被災した際の安否の
確認や連絡などに活用できます。

災害時以外でも、休日の利用が設定されています。一度、家族や親戚、友人と一緒に利用
してみましょう。

地域ぐるみや京都大学防災研究
所の取組⇒巨大地震新想定
⇒24年度における住民ワーク
ショップを踏まえハザードマップ
を作成

地震・津波からの避難においては、さらに高いところへ避難することを意識してください。

⑩夜間防災マップ&家具固定の啓発活動等 (平成27年度)

★京都大学と一緒に興津小学校が取り組む活動

①夜間防災マップ

防災キャンプの際に夜間に避難路等を確認。

⇒夜間用の防災マップを作成する。

②家具固定(家具転倒防止金具取付)の啓発等

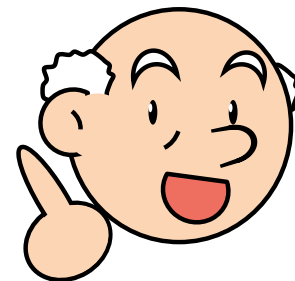
12月に家具固定を自主防災組織と興津中学校が実施
実施に向けて、京都大と協力して啓発活動を行う。

上記以外の興津地区自主防災組織の取組

①夜間避難訓練(11月28日)

②炊出し訓練(12月5日)

③津波避難訓練・自助対策学習会(8月30日)【終了】



興津の子どもは、大人を動かす…。

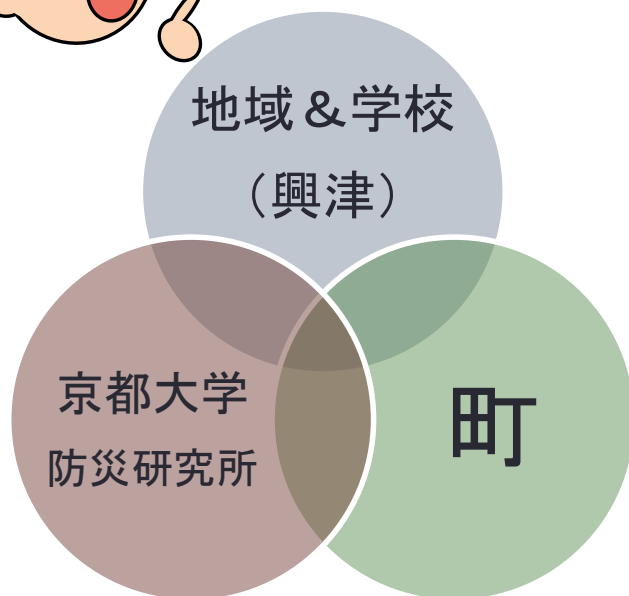
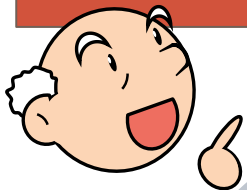


- 防災マップ作成 ⇒ 保育所＋デイサービスセンター高台移転(平成21年度)
- 京都大学の支援＋家具転倒防止対策の劇 ⇒ 補助金の設立(平成26年度)
- 町内の学校への波及 ⇒ 山間部の学校での土砂災害学習へ
- 町外の学校へ… ⇒ 県内山間部での学校防災教育へ…。学校間の連携

四万十町の防災の為に自分たちの活動が大きな力になるんだ！！



興津地区の“地域防災力育成”のまとめ



①京都大学との連携

学生と地域とのつながりにより**地域が参加**！

②専門的なアドバイス

専門的アドバイスで意識・知識・技術力UP！

③注目度アップ

メディア等も注目！⇒**住民啓発**へつながる！

④町防災力の向上

地域の底上げが**町全体の底上げ**につながる！

《まとめ》

①京都大学矢守教授を中心とする学生の支援により地域が訓練等へ参加。

②京都大学との連携により様々な効果のある訓練等がされている。

③矢守教授が来町されることにより、メディア等が勝手に取材する。

＋船村会長の強いリーダーシップ

⇒**地域防災力が“高まる”＋“継続される”**

4. 「丸山地区避難所運営マニュアル」× 高知大学

山・川・海 自然が 人が元気で



避難所運営マニュアル作成中心メンバー

丸山地区 自主防災組織



旧丸山小学校下の6地区で構成される自主防災組織。各6地区の各班長が交代で毎年会長・副会長を行う。地域の連携も強く意識も高い。

高知大学 大槻知史准教授



丸山地区自主防災組織を中心に避難所運営マニュアル作成を支援

- ・マニュアル作成のコーディネート
- ・自助対策、避難対策のアドバイス

高知県南海トラフ地震対策推進 須崎地域本部



高知県の防災対策担当部署。
町の様々な取組に対して支援を行う。
今回の避難所運営マニュアル作成についても全面的な協力をいただいている。

高知大学大槻コミュニティ防災研究所 伊藤 創平 氏



大槻准教授とタッグを組みコーディネートを行う。
将来の高知県の若き防災アドバイザーとして個人的に期待をしている若手有望株。

避難所運営マニュアル作成のきっかけ

【県】

県内10か所で避難所運営マニュアル作成のモデル地区を選定したい。

【町】

丸山地区をモデルとして避難所運営マニュアルを作成したい。

【丸山地区自主防災組織】

26年度に防災キャンプを行いたい。

★丸山地区自主防災組織を県のモデル地区の1つとして避難所運営マニュアルを作成する。



【県の当初の予定】

ある1地区をスーパーモデルとして、そのマニュアルをベースに各モデル地区へ。
各地区で協議し完成！！



【井上の思い】

金太郎飴のようなマニュアルを作っても意味がない。
地域の人が実際に利用できるようなマニュアルを作成したい。

では、どんなマニュアルが必要なのか…。

【マニュアルの条件】

避難所運営する人(地域町民)が理解し、自分たちのルールとしてマニュアル作りが必要。

避難所を運営するのは一部の人ではなく、避難者 自らが何かの役割を担う必要がある。
つまり“**避難者**”＝“**避難所運営者**”でもある。



【こうすればどうか？】

- ①地域の人が自分たちで作ってもらおう。(自分で作ったら忘れにくい。文句が言えない)
- ②訓練をしながらカラダで体感・体験すればイメージがわいたり課題が見えてくるのでは。
- ③みんなが使うマニュアルだから子供やお年寄りがみてもわかるマニュアルにしたい。
- ④マニュアルを一度も見たことが無い人でも運営できるようなマニュアルにしたい。
- ⑤必ず見直しが必要になるからそういった仕組みができるようにしておこう。



県に四万十町独自のマニュアル作成方法を相談。

県推奨「トップダウン作成方法」⇒ **地域が最初からつくる「丸山モデル」**

丸山地区避難所運営マニュアルの考え方

1. 作成方法(コンセプト)

・“地域”がつくる

- ・地域の自主防災組織が主体でマニュアルを作成(自主防災組織+民生委員+女性リーダー+防災士 等)

・“訓練”でつくる

- ・「HUG」+「防災キャンプ」(リアルHUG訓練)を行い「机上」⇒「実践的」に作成

・“わかりやすく”つくる

- ・できるだけイラスト等を利用し、わかりやすく使いやすく作成

2. 作成手順

ステージ
1

- ・勉強会【6月22日】 知る・イメージ(マニュアルの必要性+HUG訓練)

ステージ
2

- ・防災キャンプ【7月11日～12日】 体感する(リアルHUG訓練)

ステージ
3

- ・**マニュアル作成** グループで考える(ワークショップ形式)
準備→開設→運用をイメージしたマニュアル作成

ステージ
4

- ・マニュアル最終案作成【未定】 みんなで作る(ワークショップ形式)
⇒コンセプトに合わせたマニュアルが完成!



これで完成ではなく継続して見直しを!



- ・丸山地区は震度7の地震
- ・現在15時(発災後3時間)
- ・100名以上の住民が旧校舎に集まっている

まずは図上訓練



次は、実際に
シミュレーション



負傷者の救護も
体験してみる



最後は
改善策を整理

地域で作るマニュアルの効果【防災キャンプ】

7月11日(土)14:30~20:30

- ①AED訓練
- ②リアルHUG訓練(受付、要支援者対策、レイアウト作成、炊出等)

7月12日(日)7:00~10:00

- ①非常持出用袋発表会
- ②ふりかえり+まとめ



【参加者の声】

HUG訓練でイメージしたものが防災キャンプでリアルに訓練したことで、課題が見えてきた。

- ・受付するのにも名簿が必要では？
- ・体育館では寝れない。いびきや足音がうるさい…。
- ・炊出しを行うにも必要なものが揃っていない。
- ・負傷者の救護や認知症者への対応が難しい。
- ・体育館だけでは狭い。隣の校舎も利用したい。

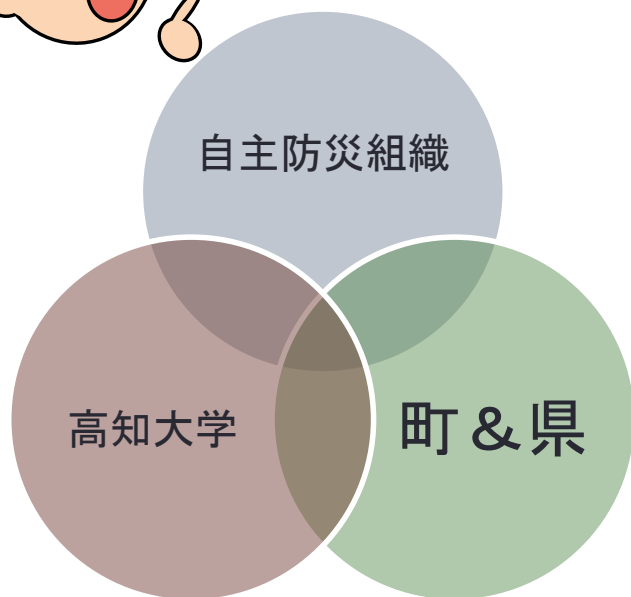
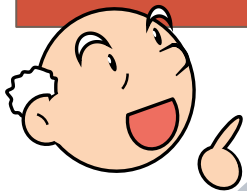


防災キャンプ(訓練)を生かし、
マニュアルへ反映する。



この方法が地域防災育成につ
ながっている感触を得た！！

丸山地区の“地域防災力育成”のまとめ



①高知大学との連携

学生と地域とのつながりにより**地域が参加**！

②専門的なアドバイス

専門的アドバイスで意識・知識・技術力UP！

③注目度アップ

メディア等も注目！⇒**住民啓発**へつながる！

④町防災力の向上

地域の底上げが**町全体の底上げ**につながる！

《まとめ》

①高知大学大槻准教授を中心とする学生等の支援により地域が訓練等へ参加。

②高知大学との連携によりマニュアル作成や防災キャンプ等で意識等向上。

③県のモデル地区＋地元の大学効果もあり宣伝につながっている。

＋元々地域のつながりが高い丸山地区。防災の意識等を高めてバージョンアップ！

⇒**地域防災力が“高まる”＋“継続される”**

5. 四万十町の取組

四万十町の各対策ごとの取組について

山・川・海 自然が 人が元気で



四万十町取組(自助対策)

【自助対策】

●家具等転倒防止対策支援

自分で家具転倒防止金具等の取付が出来ない世帯を支援(全世帯対象)
自主防災組織が取付を行う⇒組織に対して5,000円の補助。

●個人住宅耐震支援等

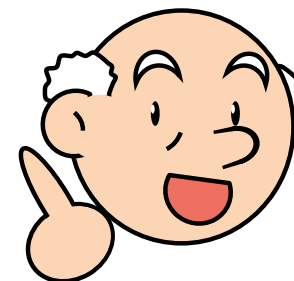
- ・耐震診断: 自己負担3,000円
- ・耐震改修設計補助金: 上限額205,000円(費用の2/3)
- ・耐震改修工事補助金: 上限額1,234,000円
- ・ブロック塀等対策推進事業: 上限額205,000円

●老朽住宅除却事業

除却工事に要する経費の一部を補助: 上限額1,028,000円(経費の80%)



四万十町の取組(共助対策)



【共助対策】

●自主防災組織の設立と見直し

平成24年度に新規自主防災組織設立(70組織⇒84組織へ)

平成25年度～活動停滞組織の再編(84組織⇒87組織へ)

●自主防災組織活動支援

各自主防災組織への活動の支援として上限150,000円の補助

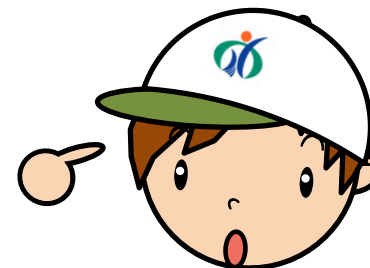
●自主防災組織活動資機材整備

平成24年～26年の3年間で約80箇所の資機材整備(1箇所500,000円程度)

●自主防災組織連絡協議会への支援

連絡協議会、支部(旧町村単位3支部)への補助 2,400,000円

四万十町の取組(共助対策)



【公助対策】

●防災活動拠点等の整備

山間部、沿岸部(興津地区も含む)への防災活動拠点の整備

●津波避難対策(避難路、避難タワーの整備)

興津地区避難タワー4号塔の完成、L2対応へのタワー嵩上、その他整備

※28年度末で一定の避難対策整備 ⇒**命を守る対策からつなぐ対策へ**…。

●地区集会所(避難所)耐震事業(50箇所)

昭和56年5月31日までの集会所への耐震対策。ほぼ100%の補助。

平成28年度末で町全避難所が耐震性有の予定(補助対象施設除く)。

★28年度以降は、ハード整備⇒ソフト事業+町の体制整備へ…。

6. まとめ

山・川・海 自然が 人が元気で



「地域防災力」とは…。

- ①「普段からのお付き合い」 = 連携・安否確認
- ②「防災をイメージする」 = 訓練・マニュアル作成
- ③「“子ども”をまきこむ」 = 学校・PTA・3世代交流
- ④「町の方針」 = 町全体 & 職員全体で取り組む
- ⑤「防災を“暮らしの一部”にする」 = 教育・不安感



- ★ 普段からの地域のつながりを作る“場面”として、“防災”を取り入れる。(①)
- ★ 災害をイメージし、マニュアル作成や防災訓練等を行う【丸山モデル】(②)
- ★ 小学校等を巻き込み、保護者・祖父母世代を含めて防災に取り組む(③)
- ★ 防災意識を高めるとともに災害時に活用できる資機材整備を行う。(④)
- ★ 普段から防災意識⇒学校に防災を組込む＋対策しないと不安にさせる。(⑤)



色々な角度から、町民の地域防災の意識を高め、“暮らし”に“文化”として、防災を浸透させるとともに、町が一体となって未来へ継続していくこと = **地域防災力**